

学校運営協議会 議事録

1 概要

議題・会議名	令和5年度 第1回学校運営協議会
開催日時	令和5年度6月13日(火) 午前9時15分～11時15分
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
出席者	外部委員7名 本校教職員10名 計17名
目的	学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、その権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校の運営への参画、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

2 議事

会議の内容	<p>【議題1】</p> <ul style="list-style-type: none">・校長より、令和5年度学校経営計画について、各学部主事より、学部経営計画の説明が行われた。説明後の委員の発言は以下のとおりである。 <p>A委員</p> <ul style="list-style-type: none">・学校教育以外のところで本人にとって不足している部分、職業について学ぶ場カレッジ制が増えてきているが、学校としてどう捉えるか。学校教育（高等部3年間）の中でできないのか。 <p>進路課長</p> <ul style="list-style-type: none">・本校高等部3年生の中にもAカレッジで実習をしている生徒がいる。高等部卒業後、今すぐではなく、ゆっくりともう少し学んでから将来を考えたいという方もいる。 <p>B委員</p> <ul style="list-style-type: none">・福祉型カレッジができてきたことには、何かしらの意味があるのではないか。福祉と学校が交流、情報共有をしていくことで必要なものが見えてくるのではないか。 <p>C委員</p> <ul style="list-style-type: none">・キャリア教育について、Aカレッジと話す機会があった。どのようなスキルがつくのか、どんな将来があるのかなどメリットとデメリットをよく考えていく必要がある。 <p>D委員</p> <ul style="list-style-type: none">・特支のもっている資源は素晴らしいが、高等部で力をつけたから全て今後は上手いくとは限らない。学校が全てを抱え込むのではなく、上手にかかわっていくことが望ましい。卒業時、最大限進路について頑張っ取り組む、その後関わってくるところとつないでいく。社会資源を利用することで学校がすべてを担う必要はない。学部経営については学部目標→基本的な考え方→本年度の取組の順にするとよい。学校目標にある「挑戦」については、あまり連発せず、挑戦する姿を具現化していけると良い。できることを広げる（縦）だけではなく、できる場所を広げる（横）ことも大切である。
-------	--

【議題 2】

- ・地域連携課長より、地域との交流活動の紹介、各学部主事より、児童生徒の変容紹介が行われた。内容は以下のとおりである。

地域連携課長

- ・開校以来、地域の方々とのかかわりを大事に、かかわりを深めながら現在に至っている。冊子 16 ページに示した通り、昨年度 1 年間、多くの方々と繋がり、そのつながりの中で子どもたちが成長した。
- ・令和 4 年度は延べ 165 人の近隣地域の方が来校し、様々な形で学習に参加した。飯田地区社協の委員を中心に地域と繋がり始めて今年度で 10 年となるが、「同じ場で一緒に過ごす」だけの交流から、「互いに学び合う」形に変わってきた。
- ・遊びボラでは、ボランティアさんと設定された遊びを一緒に楽しい時間を共有するが、昨年度は、児童生徒が「迎え係」として迎え、実態に応じてできるおもてなし（挨拶、活動場所までの案内）をした。迎えて案内するだけでなく、その後の遊び場の準備の手伝いや終わった後の片付けも手伝う姿が見られ、自分ですべきだと考えた行動を、自信を持ってする姿を引き出すことができた。ボランティアさんからは、そのような児童生徒に驚きや感心を寄せていただき、一緒に遊んだ子どもたちの様子から、それぞれの子どもの自分なりに考えをもって遊んでいることに気付いたと言われていて、児童生徒のことをより深く知っていただく機会であった。
- ・今年度は、これまでのような設定された遊びの場の共有だけではなく、児童生徒の授業と一緒に参加していただく等の、その学年、学部が最適だと思う交流の方法で行いたいと思っている。
- ・ラジオ体操、花壇ボランティア、ゲストティーチャーは、授業に招いて専門的な技能を教えていただいたり、披露していただいたりし、今年度も学年の希望に応じて、コーディネーターが地域の人材とつないでくれる。教師以外からの指導の場は、いつも以上に頑張る子どももあれば、慣れない人とのかかわりの機会になる子もある。5月に実施したラジオ体操講習では、講師から、この数年間の子どもの成長に感心していただいた。今年度赴任した教師から、清水特支の児童生徒はラジオ体操が上手だと思ったが、講習を受けてさらに手足が伸びたこと、年 1 回の講習が子どもたちにとって良い学習の場になっているという声が聞かれた。
- ・お話の会では、地域の 5 つの読み聞かせ団体が来校される。会の進行は、児童委員や生徒会が行うため、地域との方の交流とともに、異学年の交流の場、役割を果たす場にもなっている。
- ・その他にも、学校近隣の福祉施設では、入学式卒業式に向けて、利用者さんと「おめでとう」のメッセージ作りを行い、毎年飾ってくださる。
- ・昨年度の学校運営協議会をきっかけに、「しみずとくし輝きギャラリー」として、様々な場所に児童生徒の作品や活動写真を飾り、学校や子どもたちのことを知ってもらうことを目的とした展示がスタートした。今年度も夏休み前後で飯田生涯学習交流館、秋に就労継続支援事業所 CANVAS 前の廊下、11 月の八坂町文化展で自治会館、そして、静岡銀行（年間 5 回）に展示をする計画である。

進路課長

- ・静岡銀行への展示では、日軽金オーリスより、しずぎんハートフル株式会社にお声掛けいただいたことで実現した。展示は、営業時間外に高等部生徒2名と伺った。うち生徒1名は、しずぎんハートフル株式会社に就職が決まった。直接お客様から作品の感想などをうかがうことはできませんが、行員の方々から、「はらぺこあおむしの作品が一番人気だったよ。」「お客様が待っている間、よくご覧になっているよ。」と様子を教えていただいた。また、生徒は、行員の方からお客様の様子を聞いて、「はらぺこあおむしはこのまま飾っておこう。」などと意見交換しながら展示のレイアウトを考えていた。
- ・しみずとくし輝きギャラリーでは、今年度、より学校や子どもたちのことを知ってもらうために、作品につけるキャプションに作品作りのことだけではなく、その児童生徒が頑張っていることを書く工夫と、出品した児童生徒に観ていただいた方々の声が返るようにフィードバックの方法の工夫をしていく。

小学部主事

- ・5月30日(火)と6月1日(木)に開催した小学部運動会。感染症の関係で保護者の参観を分散し、2回に分けて行った。また、当初は運動場で行う予定だったが、天候も考慮し、安定して練習ができるように種目数も精選して体育館開催とした。3年振りの開催ともあって、運動会そのものを知らない児童や教員もいる中、不安も多々ありましたが、学部を越えての交流もでき、保護者からも「子どもの頑張っている姿を見られて嬉しい。」「実行委員の5、6年生の立派な姿を見て、自分の子もこうなってほしい。」と様々なコメントをいただいた。会の中では、高等部3年生の生徒が大道具係を行い、閉会式の感想コメントでは、「小学生の頑張る姿が立派だった。逆に元気をもらえました。僕たちも頑張ります。」と素敵なお言葉があった。運動会後も、友達と協力し合い、勝敗を意識した行動があらゆる場面で見られるようになった。
- ・続いては、6月8日(木)に2、3、4年生が参加した 校外学習ジャガイモ掘りです。こちらは、ぎやるそんという60代後半から70代、団塊世代の男性18人が集まるボランティア団体で様々な福祉活動に貢献されている方々との交流をした。本校は高等部がずっと交流をしてきており、昨年度は中学部、そして今年度は小学部と関わりを継続してきています。子ども達は、事前に実物を見て学習をしたり給食のメニューを見て、確認したりしてワクワクしていました。実際計画していた日は、雨のため延期となりましたが、先方の是非にと言うことで収穫ギリギリでしたが、実施することができました。現地では環境整備も整っていて気持ち良く収穫ができる状態となっていました。子ども達は、後から後から出てくる芋に目を輝かせていました。普段は荷物も持たない子も、収穫した芋の箱を持つなど不思議な光景も見られました。後日、ぎやるそんから「子ども達に癒やされた。」「楽しかった。」「ハイタッチやくっついてきてくれたのが嬉しかった。」とメールが届いた。そして、掘った所に耕運機をかけて、サツマイモの苗を植えたのでサツマイモ掘りが楽しみですと。次のお誘いを受けた。子ども達の存在が、ぎやるそんのパワーにもなっているのだと感じ嬉しくなりました。子ども達は、給食に出てくるジャガイモを見つけては「掘ったね。」と言ったり、家に帰ってからも芋掘りの様子を嬉しそうに話したり、ポテトチップスやお芋サラダを作って食べたなど、様々場面に般化でき、活きている交流学习だったと感じました。今週末には、お礼の手紙や絵を送る予定です。

- ・以上、2点となりますが、あらためて異年齢との学習や校外での経験の大切さを感じました。同時に、それをどう深めて他の場面にも活かし繋げていくかを考えていきたいと思いました。

中学部主事

- ・ベルテックス選手との交流では、事前に応援グッズ、応援旗を作り、ルールや応援方法を調べて昼休みにバスケットボールの練習をして、当日の交流に備えた。希望者を募ってチアのダンスチームを作り、昼休みに練習を行って、当日のハーフタイムに披露した。交流の単位を通して、地域のスポーツに目を向ける生徒が増えた。自宅で、テレビにベルテックスの選手が出たときに家族との話題に挙げたり、掲示してあるポスターからベルテックスのマークを見つけて教えてくれたりするなど。今後の、生涯学習や余暇活動につながる良い学習となった。
- ・SDGsの取り組みについては、昨年度より、SDGs（しみず だいすき ごみをなくそう さくせん）という活動を行っている。清水区の海も汚れていることを知り、自分たちにできることを考え、三保の海岸で清掃活動を行った。授業のはじめに、静岡市役所のごみ減量推進課の職員に出前授業をしていただき清水の海の現状を教わった。その後も、実際のごみを分別する学習などをおして、徐々に自分事として捉えられるようになった。授業終了後は、様々な場面で小さいものでもSDGsのマークを見付けると、指差して教師に教えてくれるなどの姿が見られた。自分たちが扱ったゴール以外の内容に興味をもち、「これは何のマーク？」「なんて書いてある？」と質問する姿も見られた。

高等部主事

- ・作業学習「ちいき」の取り組みについては、高等部の作業学習は「ものづくり」と「ちいき」を行っている。「ちいき」の学習では、1年生で外部からの講師を招き、基本的なスキルや取り組む姿勢を身に付けるために取り組んでいる。2年生になると、いろいろな事業所に御協力いただき、これまでに身に付けた力を実際の場（地域）で活かせるように取り組んでいる。掃除を中心に行っているが、掲示物づくりを通して利用される方との関わりの機会を持つなど、地域の人との自然な関わりもできると良いと考えている。生徒は、実際の場（地域）でいろいろな人と関わりながら活動に取り組むことで、自信を持ったり、意欲的に活動したりすることができている。

教務課長

- ・出身中との交流については、昨年度の本会にていただいたご意見を基に実現した新しい取り組みである。R4.10.27に清水第三中、R5.1.25に清水飯田中、R5.1.26に清水第五中と3回の交流を行った。本校生徒は、自分たちの清水特支での経験を、準備したテーマに沿って自信満々に後輩たちに伝えることができた。中学校生徒は一緒に過ごした先輩から直接話が聞けたことから、自発的な質問が飛び交うなど意欲的な姿が見られた。今後とも是非続けていきたい取り組みである。

高等部主事

- ・清水東高との交流を1年生が行っている。東高の生徒が来校し、顔合わせや活動の準備を行い、東高の文化祭でグループ活動を行う予定だった。今年度は台

風2号に伴う大雨の影響で、文化祭に参加することはできなかったのですが、違った形で交流が行えるように考えていきたい。同年代の生徒同士で関わる経験を積む機会となっている。

【校内参観】

- ・2グループに分かれて、校内参観が行われた。

参観の中で…

- ・小学部休み時間の参観時、「先生方が教室からいなくなることはあるのか？」
「先生方は休み時間がないのですね。」という発言有
- ・コロナ禍を経て、少しずつ教育活動(宿泊、調理など)が再開の方向であることを伝えると、北海道の特支学校を視察された委員から、カフェが併設されていて地域の方が訪れている学校があったとの話有
- ・高等部でお借りしている畑をお返りする予定であることを伝え、地域に借りられそうな土地をご存じないか伺う。また、芝生を見ていただきながら、土地がなければ、ここ(芝生)の一部を畑にする案もあることをお伝えする。

【議題3】

- ・令和5年度学校経営計画について、質疑応答が行われた。
- ・令和5年度学校経営計画について、承認が行われた。

E委員

- ・断水を経験したことから、何より水の大切さが分かった。学校横の秋葉山公園には生活用水として使える水が2万トンある。静岡市の管理であり、倉庫の鍵を八坂自治会で管理できないか交渉を続けている。

A委員

- ・「避難所」と「福祉避難所」の違いを理解しないといけない。学校の先生たちも含め、違いを知らない方がまだいると思う。

F委員

- ・防災としてできること、消防がやるべきことは分けて考えなければならない。現在も、障害者の避難生活をテーマとしたPTA学習会を計画中である。

D委員

- ・分校時代は施設面が整っていなかったため、学校外で活動することが多かった。そうした経緯もあり、「清水特支と言えば地域」という印象がある。地域とのかかわりを今後も大切にしていきたい。地域とのつながりの視点としては、「防災」の視点はかかせない。これは、児童生徒が居住地に戻った時、とても切実な話題である。学校では、同年代とのつながりを学ぶが、社会に出るとかかわる年代の幅が広がる。幅広い年代とのかかわりは、地域とのつながりの中で学ぶことが出来る。また、高等部の生徒を見て、小中学部の児童生徒が「すごいな」「カッコいいな」と感じる場を設定するなど、学校の中の小中高のつながりを意識することも大切である。

C委員

- ・静銀ギャラリーについて、児童生徒の作品が展示できて良かった。今後、利用客に投票してもらい賞を決めて生徒に返す活動もできるのではないかな。また、作業製品を展示販売させていただき、お金として返ってくる経験もできる。そこに前年度の会議で話題にあがった「学校カレンダー」も展示販売できるとよいのではないかな。

【議題4】

- ・外部委員より、地域にかがやき発信（貢献）する取組の提言が行われた。
 - ・提言を受け、各学部主事より今後に向けた話があった。
- 議題1、3の中で提言等も含まれたお話を伺うことができた。

【第1回コンプライアンス委員会】

- ・教頭より、不祥事根絶の取組計画の説明を行い、外部委員より、今後に向けた話があった。

E委員

- ・車に乗っていると危ない自転車が気にかかる。自転車も車と同じ「車両」として扱われることを意識したい。

G委員

- ・公用車の管理もしている中、事故が多発するが、そうした情報は知らしめる意味であえて紹介するようにしている。職員研修のグループワークでは、自分の行為により家族や関わる人全員が悲しむというところまで、あえて最悪な状況まで話題とした。

F委員

- ・保護者の立場として、学校に一番を求めることは安全管理である。偶発的な事故等はある程度仕方が無いこともあるが、親は学校（先生方）への信用のもと子どもたちを預けているため、安全管理を一番を求める。

【次回の予定】

予定日時	令和5年9月22日（金）午後1時15分～3時15分
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室